

基準緩和型訪問サービス従事者資格研修(案)

教科名	目 的	内 容
I 講義 15 時間		
1 社会福祉に関する知識 (5 時間)		
(1) 豊かな人間観を もとう (3 時間) 講師例 社会福祉士 等	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービスを提供するにあたっての基本視点を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> QOL の向上等、主要な福祉理念 豊かな人間観 生活者としての援助対象の把握、生涯発達の視点、自己実現の視点等 他者理解と共感 自立援助 経済・身体的自立と精神的自立、役割意識とプライド、能動性・主体性 利用者の自己決定
(2) 高齢者保健福祉の 制度を学ぼう (2 時間) 講師例 市健康福祉部職員 等	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度を中心とした高齢者保健福祉の制度とサービスについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者保健福祉の背景と動向 介護保険制度の概要とサービスの理解 サービスの提供と人権擁護（成年後見制度と地域福祉権利擁護事業等）の理解
2 ホームヘルプサービスに関する知識と方法 (7 時間)		
(3) ホームヘルパーの 役割や仕事を知ろう (2 時間) 講師例 介護福祉士 等	<ul style="list-style-type: none"> ホームヘルプサービスの役割と業務を理解する。 ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する。 サービス提供における利用者の人権の尊重について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームヘルプサービスの社会的役割 ホームヘルプサービスの制度と業務内容 チームケアの理解 ホームヘルプサービス業務においてとるべき基本的態度 福祉業務従事者としての倫理 サービス提供における利用者の人権の尊重、プライバシーの保護等 介護の目的、機能と基本原則
(4) かんたん心理学入門 (2 時間) 講師例 ()	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の心身の特徴と生活像を把握し、援助の基本的な方向性を理解する。 介護者家族に対する理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の心身と生活像の理解と援助 介護者家族の理解と援助
(5) 栄養や調理方法の 基本を理解しよう (3 時間) 講師例 管理栄養士など	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者への家事援助の目的と機能を理解し、その方法を学習する。 高齢者への家事援助に必要な栄養、調理、住居管理等の知識を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家事援助の目的、機能と基本原則 家事援助の方法 家事援助における自立支援 調理方法の基本的な理解 食品の保存・管理 ゴミの始末、調理器具、食器等の衛生管理 快適な室内環境と安全管理
3 関連領域の基礎知識 (3 時間)		
(6) 病気への基礎知識 をもとう (1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の在宅生活援助に役立つ知識を中心に家庭の医学の基礎知識を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な疾病の基礎知識と予防・対処方法 感染症の理解と予防 身体の観察
(7) 認知症高齢者との 接し方を身につけよう (2 時間) 講師例 認知症キャラバンメイト	<ul style="list-style-type: none"> 認知症についての知識を学習する 認知症高齢者との接し方を身につける 	認知症サポーター養成講座の内容

Ⅱ 実技講習 9 時間 ロールプレイ等については見学のみで修了することがないことを原則とする。		
(1) 高齢者との コミュニケーション (4 時間) 講師例 ()	・サービスの利用者の立場に立った 理解とサービス提供者としての 基本的態度を形成する。	・ロールプレイ等の方法によりサービス 提供場面の演習を通じて、サービス利用者 に対する共感的理解と基本的態度の形成 を図る。 訪問・退出時のあいさつ 傾聴的態度、信頼関係の形成 物の処分・移動における言葉かけ 銀行入金代行業務や買物業務時の注意点 (レシートの取得等) できないことの拒否の仕方 助言の仕方 認知症高齢者等とのコミュニケーション 視覚・聴覚障がい者との コミュニケーション 等
(2) 人工呼吸など 救急時の対応 について覚えよう (2 時間) 講師例 救急救命士・看護師 等	・在宅支援を行なうにあたっての基礎 的な緊急時の対応技術を修得する。	・救急時対応（骨折、火傷、てんかん発作、 化学物質による中毒、誤嚥による窒息等） 等
(3) ホームヘルプ サービスにおける 援助方法を学ぼう (3 時間) 講師例 介護福祉士 等	・ホームヘルプサービスにおける 援助方法と実際について共通の 理解を図る。	・介護の目的、機能と基本原則 現任のサービス提供責任者等を囲んで、 事例検討や実践的内容のグループ討議を 行なう。

Ⅲ 実習 3 時間 各事業所で実施 ※実習に先立ち、オリエンテーションを実施のこと。		
(1) 在宅サービス 提供現場見学 (3 時間)	・在宅サービスの提供現場の見学 を通して、その役割・機能を理解 する。 ・ホームヘルプサービスと他の サービスとの連携のあり方等、 在宅高齢者等への総合的支援 のあり方について学習する。	・ホームヘルプサービス同行訪問・見学 (原則として 3 時間×1 回以上実施) * 実習方法の弾力的運用 在宅サービス提供現場見学については、 見学時間の概ね半数を超えない範囲内で、 ビデオ学習をもって同行訪問見学到に代える ことができる。